

理学部創立30周年記念奨学金について (2024年度「理学部創立30周年記念優秀論文賞」)

日常起きている様々な現象への探求心、理学を学んでいるうちに湧いてきた疑問や発見、そして自分の主張などを論文にまとめてみませんか。論文テーマは、同じ趣味を持つ友人との会話や、子供の頃から描いてきた理学への夢、日ごろ抱いている疑問などから出てくるでしょう。それらを理論立ったものとしてまとめあげて文章化する過程で、矛盾点や新たな問題点が見えて試行錯誤することもあるでしょう。しかし、この奨学論文では、内容の完成度だけでなく、テーマ選定での独創力、そしてそれをしっかりと読み手に伝える表現力・説得力にも評価の力点が置かれています。論文執筆の作業は、苦労はあっても実り多いものとなるはずです。多くの学生・院生の皆さんが応募することを期待します。

応募要項

詳細は募集要項を確認してください。

1. 目的

理学部・大学院理学研究科では、同学部・研究科に在籍する者を対象に、所定に提出された論文の中から、着想力、独創力などにおいて特に優れた論文に対し「理学部創立30周年記念優秀論文賞」を授与する。また、受賞論文を作成した者に対しては、理学部創立30周年を記念して、1979年度に理学部卒業生、教員ならびに学内外の有志によって寄贈された基金をもとにした「理学部創立30周年記念奨学金」を支給する。

2. 出願資格

- ①出願年度秋学期に在学している者。(休学している者及び休学予定の者は出願できない)
- ②提出論文は、複数名による共著論文も可とする。
- ③外国人留学生においては、日本政府(文部科学省)奨学金を受給している国費外国人留学生でない者。また、他の奨学金を出願・受給している者は、その奨学金の定める併給条件等を確認すること。本奨学金との併給が認められない場合があるので注意すること。(併給条件がわからない場合には国際センターに確認すること)

3. 論文題材等

自然科学や数学の教養を深めるために日頃考えている事や興味ある事を自分なりの発想・着眼点でまとめた論文。ただし、自分の数学講究・応用数学講究・卒業研究や特別研究に関連した、もしくはそれから派生した内容ではないこと。理系の教養をもつ人であれば誰でも理解できるように、前提となる専門知識については十分に説明すること。

4. 論文書式

別途配布する募集要項を参照すること。特に次の点に注意すること。

- (1) Word もしくは Tex で作成すること。
- (2) 論文中の、引用・参考にした文献は、論文中に適切に明示し、詳しい内容(著者名、出版年、雑誌名、巻、号、ページ等)を含んだ文献表を論文の最後に記すこと。引用・参考ルールを守らない場合(無断引用等がある場合など)は、審査対象としない。
- (3) 論文の最初には、論文題目および氏名、所属を明記すること。

5. 出願期間

9月下旬 ※詳細は募集要項(6月発表)で確認のこと。

6. 給与額

一件につき、10万円、20万円または30万円

7. 採用件数

3件以内

8. 審査方法

理学部の教員等からなる審査委員が、主に独創性、表現力、説得力（議論の明晰さ）等を審査し、選考委員会が選考する。なお、審査は学年の違いを考慮して行なう。最終選考の際に、面談を行うことがある。

9. 願書および論文提出先

学生部学生課（データ提出）

10. 採用発表

11月中旬予定

【参考】過去10年間の採用論文題名は次のとおりです。

（過去の採用論文は、4号館学部事務3課で閲覧が可能です。）

2023年度：「過渡吸収分光法を用いた項間交差量子収率の定量評価」

2022年度：「準接続層の一般化について」

「正の実数の与えられた正整数番目の小数点数を近似的に求める方法について
—小数点数の一般化を通して—」

「求められるべき新たなエネルギー源 ～Using the power of “Thunder”～」

2021年度：「黄檗主成分ベルベリンを機軸とする新規天然染料誘導体の合成」

「ヒルベルトの基底定理の一般化について」

2020年度：該当なし

2019年度：「教材化を指向したクロロフィルによる染色実験」

2018年度：「自己補グラフとなる条件の考察」

「融点を決定する物理量とその要因」（共著論文）

2017年度：「屈折計の学生実験への応用」

2016年度：該当なし

2015年度：「葉の各成長段階における細胞および色素の変化」

「石油危機と生分解性プラスチックの導入」

2014年度：「コンピューター社会における人間の役割」

「騙される感覚～なぜ誤認が生じるのか」

「上野動物園サル山の生活」

2013年度：該当なし